
令和6年度 第1回午前（4科目）

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和6年2月1日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生どうしの貸し借りもできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. スマートフォンは、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子の印刷が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は18ページまであります。
8. 問題冊子は持ち帰ってください。

一

次の――線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直して書きなさい。

- ① 祖父はギリと人情に厚い人だった。
- ② 習慣と病気のインガ関係を調査する。
- ③ キャベツ畑に農薬をサンブした。
- ④ 常に世界ジョウセイに注目しておく。
- ⑤ 新しいファッション雑誌がカンコウされた。
- ⑥ 有名な脳科学者のコウエンを聴ききに行く。
- ⑦ 県大会でヒガンの初優勝を果たした。
- ⑧ スポーツ選手のキンセイの取れた体型。
- ⑨ 節約のため質素な生活を送る。
- ⑩ だれに対しても敬う気持ちを忘れない。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

外出したさい、ちようどお昼なので、その辺で昼飯を食べようと思ったたら、ラーメン屋が目にと留まった。ラーメンもいいが、もつとほかに美味いものがあるかもしれない。そう思って、つぎの店を探す。すると、そば屋が目に入った。そばか、それもいいけど、もう少し探してみよう。こうして洋食、とんかつ、お好み焼き、等々、いろいろな店をめぐるが、結局、どれもまいちで、決められない。探せば探すほど、余計に迷ってしまう。最後は、もう何でもいいや、と思って、眼の前のラーメン屋に入る。そうしたら、そのラーメンはいまいちだった……。

① こんな失敗をしないためには、あらかじめ周辺にどんな店があるのかをよく調べ、腹の減り具合や懐具合を勘案して、どの店で何を食べるかをしっかり決めておかなければならない。このような計画を事前に立てておけば、昼飯を求めて当てもなく彷徨するというような愚は避けられる。

このように計画はたしかに重要である。よく計画してから行動せよと言われることも多い。しかし、なぜ計画は重要なのだろうか。あらためて考えてみよう。まず、その場で考えたのでは間に合わないケースがある。「泥縄」という言葉が示すように、泥棒を捕まえてから縄をなっているのは、泥棒に逃げられてしまう。泥棒を捕まえたかどうかをあらかじめ考えて、縄で縛ることにするならば、縄をなつて用意しておかなければならない。事が起こってから対策を考えようとしても、十分考える時間はないし、いい対策を思いついても、準備する時間がない。まさに「泥縄式」の対応になる。

また、計画を立てないと、せっかく行ったことが無駄になることがある。今夜は、コーヒーでも飲みながら、本を読もうと思って、コーヒー豆を買って帰る。しかし、コーヒーミルを探してみると、どこにも見当たらない。そういえば、古くなったので、先日、ゴミに出したのだとハタと気づく。挽いてある豆を買うべきだったと後悔しつつ、仕方なくお茶をいれて飲む。せっかく買ったコーヒー豆は無駄になってしまう(腐るものではないのでとってはおけるが)。

さらに、計画を立てないと、やったことが無駄になるところか、邪魔にさえなることがある。家具の配置換えをしようと

思つて、机や椅子、本棚を動かしてみる。しかし、やみくもに動かしたりすると、たとえば動かした机が邪魔になつて、そこに本棚を置くことができなかつたりする。そこで、仕方なく、机を元の位置に戻す。B羽目になる。家具の配置換えは、結構複雑な作業だ。行き当たりばったりでは、ある移動がთვისの移動の邪魔になることがある。どれをどの順に移動するかの事前のしつかりした計画が必要だ。

「机上の空論」とか「下手の考え休むに似たり」という言葉があるように、現実と噛み合わない上滑りの思考は、空転するばかりで役に立たない。しかし、現実としつかり噛み合つた思考は、きわめて有用である。家具の配置換えを計画的に行うには、部屋の図面を書いて、どこに机や椅子、本棚を置くかを書きこみ、それらをそこに移動するためには、どの順にどのルートで動かすかを具体的かつ詳細に決めなければならない。④それはまさに「机上」で綿密に行わなければならない。そのような「机上」の緻密な計画があつてはじめて、効率的な配置換えが可能になる。

もちろん、計画を立てるには、それなりの時間と労力がかかる。場合によつては、とくに計画を立てずに、適当に場当たり的にやったほうが早く楽にできるかもしれない。汚れた食器を洗浄機に入れるとき、どれをどの順にどこに置くかをあらかじめ決めるのは、非常にむずかしい。そんなことをあれこれ考えるより、適当に入れて、うまく行かなければやり直すようにしたほうが、はるかに早いし、楽である。

とはいえ、たいていは計画的にやったほうが効率的である。家具の配置換えについて計画を立てるのは、なかなか手間暇のかかる作業だが、計画を立てたほうが早く楽にできる。重たい机や本棚を動かすのは時間と労力がかかるし、それを何度もやり直すのは耐えがたい。そのような試行錯誤を図面上で行うことができるのは、私たち人間の恵まれた才能だ。計画はそのような才能を活かした人間独自のすぐれた営みなのである。

たしかに計画は重要だ。しかし、読者のみなさんもおそらく身に染みているように、どれほど緻密に計画を立てても、必ず想定外のことが起こる。

たとえば、さまざまな可能性をよく考えて周到に計画を立て、そのうえで銀行強盗を執行したとしよう。ところが、銀行

の床にたまたまバナナの皮が落ちていて、それで滑ってあつてなく捕まってしまう。もちろん、バナナの皮が銀行の床に落ちていることはまずないが、その可能性はけつしてゼロではない。完全な計画を立てようとするれば、どれほど確率の低い出来事でも、それが生じたときの対策を考えておかなければならない。

しかし、生じる可能性のあることは、きわめて確率の低いものまで含めれば、ほとんど無限にあると言ってよい。たとえば、銀行強盗中に、赤ちゃんが突然泣きだして、その声で外にいる仲間と連絡がとりづらくなるとか、行員の尋常ならざる悲鳴に驚いて腰を抜かす、運転を誤った車が銀行に突入してくるなど、可能性は低くても、けつして起きないとは言えない。さらには、ミサイルの飛来や隕石の落下といった出来事すら、確率はゼロではない。このようなほとんど無数の起こりうる事柄をすべて考慮することは、私たち人間には実際上不可能である。

したがって、どれほど緻密な計画を立てるとしても、きわめて確率の低い事柄は無視せざるをえない。ミサイルの飛来や隕石の落下は、確率がゼロではないとはいえ、起こらないものとして考慮の外に置くほかない。

ただし、厳密に言えば、^⑤ どの事柄を無視するかは、それが生じる確率だけで決まるわけではない。生じる可能性のある事柄のうち、銀行強盗の成功を大きく妨げるものもあれば、そうでないものもあるだろう。つまり、事柄によって、それが生じたときにどれだけ成功を妨害するかが異なる。これを「妨害量」の違いとよぶことにしよう。妨害量の大きい事柄ほど、それが生じたときに成功を大きく妨げる。

銀行強盗中にバナナの皮ですべて転ぶことは、きわめて確率が「あ」とはいえ、それが生じれば、ほぼ確実に捕まる。したがって、その妨害量はかなり「い」。これにたいして、行員の尋常ならざる悲鳴は、ある程度の確率で起こるとはいえ、それほど銀行強盗の遂行に支障を来さないだろう。したがって、その妨害量はあまり大きくない。

このような妨害量が「う」としても、それらの確率とそれぞれの妨害量を掛けあわせた値(妨害の「期待値」とよばれる)は、バナナの皮による転倒のほうが「え」かもしれない。そうだとすれば、バナナの皮による転倒のほうが、銀行強盗の成功をより大きく妨げることになる。そうであれば、行員の尋常ならざる悲鳴を無視して、バナナによる転倒のほうを考慮に入れる

ことになるだろう。つまり、どの事柄を無視するかは、その事柄が生じる確率だけではなく、その確率と妨害量を掛け合わせた値(つまり妨害の期待値)によって決まるのである。

以上、厳密を期すために、少し込み入った話をしたが、ともかく重要なことは、どれほど緻密な計画を立てるにせよ、完全な計画を立てることは不可能だということである。起こる可能性のある事柄はほぼ無限にあり、そのすべてを考慮することはできないから、一部の事柄は起こらないものとして無視するしかない。つまり、想定外とするしかない。しかし、想定外の事柄も、生じる確率がゼロでない以上、起こりうる。そして、もしそれが起これば、計画はおそらく失敗するだろう。したがって、絶対に失敗しない完全な計画を立てることは不可能なのである。そこには、計画を立てることは重要だが、⑥ 完全な計画を立てることはできないというジレンマがある。このことはよく頭に入れておいたほうがよいだろう。

(信原幸弘『「覚える」と「わかる」より』)

(注1) 勘案…あれこれと考え合わせることを。

(注2) 彷徨…あてもなく歩き回ることを。

(注3) 縄をなつて…「縄をなう」は藁や糸をより合わせて縄を作ること。

問1 ── 線部A「ハタと」・B「羽目になる」の意味として最も適切なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A「ハタと」

ア・なんとなく

イ・やつと

ウ・突然とつぜん

エ・はつきり

B「羽目になる」

ア・予想外の展開になる

イ・初めにもどる

ウ・余計な苦労になる

エ・困った状況じょうきょうになる

問2 ── 線部①「こんな失敗」とありますが、それはどのような失敗ですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア・周囲や自分の状況じょうきょうをあらかじめ考えて事前に昼食を食べる店を考えておかなかったために、結局おいしくない食事をとることになってしまったという失敗。

イ・いろいろな種類の昼食を目の前にしてその中からひとつを選ぶ決断力が足りなかったために、結局おいしくない食事をとることになってしまったという失敗。

ウ・昼食に食べたいものをあらかじめ考えておいたが、近辺にそれが食べられる店が無かったために、結局おいしくない食事をとることになってしまったという失敗。

エ・最初に目に留まった店に入ればよかったが、ほかの店にも目移りしてしまったために、結局おいしくない食事をとることになってしまったという失敗。

問3 ── 線部② 「なぜ計画は重要なのだろうか」とありますが、「なぜ計画は重要なのですか。その理由を五十字以上六十字以内で説明しなさい。句読点などの記号も字数にふくみます。

問4 ── 線部③ 『泥縄式』の対応」とありますが、その具体例として最も適切なものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 購入していた宝くじで大金が当選してから、家族と賞金の使い道について相談した。

イ. 新発売のゲーム機を購入予約してから、お小遣いをもらうために親にどう説明しようか考え始めた。

ウ. 文化祭で使っていた電動ドライバーが故障してから、故障した部品を買いにホームセンターに行った。

エ. 登山していたら持ってきた水筒の水が尽きてしまい、慌てて水場を探した。

問5 ── 線部④ 「それはまさに『机上』で綿密に行わなければならない」とありますが、『机上』で行う」とはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 実際の現場とは離れたところで事前にその現場を想定して行うということ。

イ. 実際の行動が空転しないように、現実との関係をよく考えて行うということ。

ウ. 行動が無駄にならないように、効率性の高さを重視して行うということ。

エ. 同じことを何度も繰り返さないように実際に図面に書いて試行錯誤するということ。

問6 線部⑤「どの事柄ことがらを無視するか」とありますが、「どの事柄を無視するか」は何によって決められると筆者は述

べていますか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. その事柄が妨げになることを防ぐための計画の緻密ちみつさ。

イ. それが実際に起きたときにものごとの成功をどれくらい妨げるかをあらわした「妨害量」。

ウ. 計画の実行を妨害するような出来事が発生する確率の高さ。

エ. 計画の妨害ぼうがいとなる事柄が生じる確率とその事柄が成功を妨げる程度とをかけた値あた。

問7 文中の空らん あ う には「高い」もしくは「低い」が、空らん い え には「大きい」もしくは「小

さい」のいずれかが入ります。解答らんに示してある語句の適切な方を○で囲みなさい。

問8 ——— 線部⑥ 「完全な計画を立てることはできない」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適

切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア．計画を妨害する可能性のある事柄は無限にあるわけではないため、全てを考慮に入れることも不可能ではない。しかし、考慮に入れたことが起こった場合でも、計画した対処法にまちがいがある可能性もあるから。

イ．計画を妨害する可能性のある事柄はほぼ無限にあるため、その全てを考慮に入れる必要が出てくる。しかし、全てを考慮に入れたとしても、それが起こったときの計画の失敗を防ぐことはできないから。

ウ．計画を妨害する可能性のある事柄はほぼ無限にあるため、その全てを考慮に入れることはできない。しかし、考慮に入れなかったことも起こる可能性はあり、それが起これば計画は失敗することになるから。

エ．計画を妨害する可能性のある事柄は無限にあるわけではないため、その全てを考慮に入れることができる。しかし、そこに計画を実行する側の油断が生じ、計画の実現を妨げることになるから。

三

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

誰もいなくなつた放課後の教室はがらんとしてとても静かだった。

上靴の底が床を擦る音、椅子を引く音、心臓が脈を打つ音、グラウンドから聞こえる声。全部が鮮明に届いて、ひとりなのにどうしてか少し緊張してしまふ。

机の中に放り込んだスマホを無事回収し、それから何気なく窓の外に視線を移した。まだ明るい空と混ざり合つたオレンジの光がとても眩しい。

夕焼けを収めておきたくてカメラを起動させると、そのタイミングでスマホが振動した。

表示された通知を確認すると、ユウナから「あやちゃんスマホあった？」といった内容のメッセージが送られてきていた。

「あつた。ごめんありがとう」と返信しながら、^①なにがごめんとありがとうなんだっけと自分に疑問を抱く。

癖というのは怖いもので、慣れれば慣れるほど、言葉や仕草に含まれる意味合いが薄れていってしまう。「ごめん」も「ありがとう」も大切な言葉なのに、私が使うと、どうしても粗末にしているような気がするのだ。

「あれ、庄司さん」

不意に、そんな声が掛けられた。振り向くとそこには仁科くんが立っていて、私の口からは反射的に「仁科くん」と彼の名前がこぼれた。空に向かって構えていたスマホを隠すように腕を下ろす。空が綺麗で写真に収めたいと思う、なんて、私のキャラじゃない。

「忘れもの？」

「うん、スマホ忘れちゃつて。仁科くんは？」

「俺は……うん、まあ、そんな感じ？」

なんで疑問系？と思ったけれど、私はその理由を聞く前に仁科くん「ひとり？」と質問される。彼は私の横を通り抜けると、窓を開け夕焼けの光を浴びるように窓の縁に体を預けた。黄昏れる、というのは、こういう瞬間を言うんだなどその時強く実感した記憶がある。

「いつものふたりは一緒じゃないんだね」

「いつもの……」

「永田さんと、木崎」

「ああ……モモコは部活。ユウナは一緒にいたけど先に帰ったの。一緒に戻らせるの申し訳ないじゃん」

「ふうん」

ふうんって、^②聞いてきたのは仁科くんのほうなのに。

興味のなさそうな返事にうまく反応できず、沈黙が訪れる。こういう時ばかり、話し上手なユウナがいてくれたら、なんて都合の良いことを考えてしまう私は、^③とてもずるい人間だと思う。

「ねえ」と、仁科くんが再び口を開く。

開けた窓から抜ける夏のぬるい風が、仁科くんの黒髪を仄かに揺らしている。彼の横顔をちゃんと見るのは初めてで、その

の美しさに、心臓が脈を打った。

「^④庄司さんって学校楽しい？」

「は？」

「楽しい？」

クラスメイトと話している時より雑なトーンで二度聞かれたその質問の意図は汲み取れなかった。

庄司さんって学校楽しい？

それは、どういう視点でどういう理由で聞かれたものなのだろうか。

「普通に、楽しいよ」

疑問を抱いたけれど、問うに値しなかった。あたりさわりなく聞かれた質問に答えると、仁科くんは「へえ」とこれまた興味なさそうに言うのだった。

私が過ごす学校生活は可もなく不可もない。日々に大きな不満もないし、これといってトクベツなことも起きない。放課後は友達と遊んだり、寄り道をしたり、^A人並みに恋愛もしたりして、そうやって生きている。

一般的に見て、平均的に考えて、私が生きている今は、「普通に楽しい」のだと思う。ただ、それが少し物足りないというだけで。

「その『普通』って、なんなんだろう」

「はあ？」

「『普通』に楽しいとか『普通』においしいとか。誰にとつての普通が基準になつてんのかなつて、疑問に思ったことない？」

仁科くんと私は、友達でも恋人でもない、ただのクラスメイトだ。これまでのどこかでまともに会話をした記憶はない。目を見て話すのだから、その時が初めてに等しかった。

私が知っている仁科くんは、いつも周りに人が集まっています、誰にでも平等で、運動も勉強もできる、才能にも人脈にも恵まれた人。

「ずっと気になつてたけどさ、庄司さんつてべつにすごい明るい人間じゃないよね」

じゃあ、^⑤私が今、話している仁科くんは誰なんだろう。

西日が仁科くんを照らしている。窓に寄りかかったまま振り向き、仁科くんは続けた。

「木崎と話してる時とか特に、目死んでるし。いつも『合わせてあげてる』んだなつて思つて見てたよ。庄司さんつて、

^⑥百円のイヤフォン買つて一日で壊れて『百円だからしょうがないや』つて妥協するタイプなんだなつて」

「……なにそれ。意味わかんないし」

「値段と質は比例するから。百円のイヤフォン五十回買うのと五千円のイヤフォン一回買うのとじゃ全然意味合いが違う。それで庄司さんは、高いイヤフォンを買わない派」

「ねえ、さっきから何の話してるの」

「それってさあ、対価を払って壊れた時が怖いから？」

何も言えなかった。B 凶星をつかれて、言い返す言葉がなかったのだ。

中学生ながらに、私は自分の限界を見据えていた。

高いイヤフォンを買うのは怖い。払ったお金が高ければ高いほど、壊れた時のショックが大きいから。その点、百円で買ったイヤフォンは何回壊したって抱える罪悪感はずかしくないから。

百円だから。安いから。音質は気になるけれど支障が出るほどじゃないから。

思い入れは少ないほうがいいのだ、物にも——人にも。

地元だから。揉めたら面倒だから。周りの歩幅に合わせたほうが何事も穏便に済むから。

誰にも言ったことのない本音が露呈してしまった気がして、私は恥ずかしくて目を逸らした。

「……なんなの、仁科くん」

「べつに、思ってたことを言っただけ。やっぱり、俺が想像してた通りの人だった」

「想像って」

「庄司さん、いつもつまんなそうな顔してる。勿体ない生き方してるんだなあと思ってたよ——俺と同じだ、って」

こぼれた私の声はとてほかすかで、弱かった。睨むように視線を向けても、仁科くんにはきつと響いてはいない。

クラスの人気者の仁科くんとはかけ離れた二面性を知っている人は、いったいどのくらいいるのだろう。

「今日の空、綺麗だね。収めておきたいって思うの、わかるよ」

仁科くんがシャッターを切る音がやけに印象的だった。

『庄司さん、いつもつまんなそうな顔してる』

同級生に、ましてや関わりがなかった男子に、こんなふうに言葉を吐かれたことはなく、仁科くんには期待するほどデリカシーがなかった。

つまんなそうな顔して生きてる。

それってどんな顔？ 仁科くんの世界に、私はどんなふう映ってるの。

聞きたかった、けれど、聞く勇氣はなかった。

「勝手に私をわかった気にならないでよ」

「はは、ごめん。でも事実でしょ？」

「むかつく……」

むかついた。けれど同時に、^⑦ 本音で話した時間はあまりに煌^{きら}めいていて——私は確かに惹^ひかれていたのだ。

(雨^{あめ}『きみとこの世界をぬけだして』より)

(注) 「それで」…「それで」の意。

問1 |||| 線部A「人並みに」・B「凶星をつかれて」の意味として最も適切なものをそれぞれ次の中から一つずつ選び、

記号で答えなさい。

A 「人並みに」

ア. 世間の人と同じ程度に

ウ. 他の人より一層真^{しん}剣^{けん}に

イ. 周囲の人の真^ま似^ねをして

エ. 感情を持った人間らしく

B 「凶星をつかれて」

ア. 他人からは隠^{かく}しておきたい自分の弱みを見ぬかれて

ウ. 思いもよらないことが突^{とつ}然^{ぜん}起きて

イ. そのとおりであることを人から指^し摘^{てき}されて

エ. 質問にどう答えたらよいか分からなくて

問2 — 線部①「なにがごめんとありがとうなんだつけと自分に疑問を抱く^{いだ}」とありますが、これはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. メッセージを送ってくれた友人に対する返信に、謝罪と感謝の気持ちを意味する言葉をうっかり使ってしまったと気づいたということ。

イ. メッセージをくれた友人に対する返信に、謝罪と感謝の気持ちの言葉をどうして付け加えないといけないか不思議に思ったということ。

ウ. メッセージをくれた友人に対して、単なる習慣で反射的に謝罪と感謝の言葉を返信している自分に気づいたということ。

エ. メッセージを送ってくれた友人に対して、謝罪と感謝の気持ちを表すことに慣れてしまっている自分におどろいたということ。

問3 — 線部②「聞いてきたのは仁科くんのほうなのに」とありますが、このときの「私」の心情の説明として最も適切な

なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 聞かれたことについてそのまま答えたのに、つまらなそうな返事をされてしまい、いらだちを感じている。

イ. 聞かれたことについてそのまま答えたのに、そっけない返事をされてしまい、とまどいを感じている。

ウ. 聞かれたことについてそのまま答えたのに、わけのわからない反応をされてしまい、がっかりしている。

エ. 聞かれたことについてそのまま答えたのに、反感のこもった反応をされ、どうしていいかわからなくなっている。

問4 ——— 線部③ 「とてもずるい人間だと思う」とありますが、「私」が自分のことを「ずるい人間」だと感じているのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 目の前にある大事な問題から目をそらし、自分に都合のいい想像をして現実逃避するところがあるから。

イ. いつもは見下している友人に、たまたまそこにいるからという理由だけで助けてもらおうとするところがあるから。

ウ. 自信が持てないという理由で、好意を持っている相手との間を他人に取り持つてもらおうとするところがあるから。

エ. 自分が困ったときにだけ、普段は適当にしか付き合っていない相手にでも頼ろうとするところがあるから。

問5 ——— 線部④ 「庄司さんって学校楽しい？」とありますが、「仁科くん」はなぜこのような言葉をかけたのですか。

その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 庄司さんは表面的には楽しそうにしながら実は生活に物足りなさを感じているのではないかと思っていて、それをこの機会に確かめたかったから。

イ. 庄司さんは無理をしてまで周りに合わせることで友人関係を維持しているのではないかと思っていて、そんな庄司さんの勇気の無さを責めたかったから。

ウ. 庄司さんは「普通」であることに違和感を抱いているのではないかと思っていて、自分と同じ思いを抱く仲間として悩みを共有したかったから。

エ. 庄司さんは周囲の人に合わせることを優先するために自分自身が本当に望んでいることを犠牲にしているのではないかと思っていて、そんな庄司さんを救ってあげたかったから。

問6 —— 線部⑤ 「私が今、話している仁科くんは誰なんだろう」とありますが、このように考えたのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア．人気者で優等生に見えていた「仁科くん」が、普段の元気な様子とは打って変わって気弱な様子で弱音を吐いている様子を目にし、いつもの彼とは同一人物とは思えなかったから。

イ．誰にでも優しく平等だった「仁科くん」が、初めて話したにも関わらず「私」を傷つけるようなことを平気で言っているため、これが「仁科くん」の本性であると認めたくなかったから。

ウ．人気者で優等生に見えていた「仁科くん」が、特別に親しくもない「私」に対していつもと違った様子でずけずけとした物の言い方をしているため、まるで別人のように感じられたから。

エ．誰にでも優しく平等だった「仁科くん」が、クラスメイトである「私」の話を上の空で聞いて会話が成立しない様子を見て、これは本当の「仁科くん」であるはずがないという気持ちになったから。

問7 —— 線部⑥ 「百円のイヤフォン買って一日で壊れて『百円だからしょうがないや』って妥協するタイプなんだなって」とありますが、仁科くんはこの言葉で庄司さんがどのような人であると言っているのですか。五十字以上六十字以内で説明しなさい。句読点などの記号も字数にふくみます。

問8 ——— 線部⑦ 「本音で話した時間はあまりに煌^きめいていて」とありますが、このように感じたのはなぜですか。その理由

由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア・今までは本音で話そうとしてもそれを受け止めてくれる友人はいなかったが、仁科くんは「私」の本音を受け止め理解してくれて心をうたれたから。

イ・仁科くんに指摘されることで「私」は初めて自分の隠されていた思いに気付かされたが、それは眼^めを背^{そむ}けたくなるものであったから。

ウ・「私」の悩^{なや}みに気付き、とげのある言葉によってではあるが「私」にアドバイスしてくれる仁科くんの優しさに好意を抱き始めたから。

エ・本音を隠して友人に合わせている「私」にとって、「私」の本心を見抜^{みぬ}いている仁科くんのやりとりは新鮮^{しんせん}で貴重なものであったから。

